

ニュース

第1回ドイツアピセラピー会議

本年開催のアピセラピー関連行事のなかで最も重要な大会となる標記の会議の案内が大会委員長 Stefan Stangaciu 氏から届けられた。

会議の概要は下記の通り。

開催日時：2001年8月18～19日

テーマ：アピセラピーの理論、実践と臨床

セッション：全体的なシンポジウムのほかに各生産物ごとのセッションが予定されている

会場：パッサウ市ホリデイ・イン大会議場

※パッサウ市は鉄道でミュンヘンから東へ2時間、ウイーンから西へ3時間のところであり、会場は駅から徒歩2分

参加費：一般は100DM（約40USドル）

宿泊：市内でダブル泊20～50USドル

言語：すべてのシンポジウムは英、独、仏、スペインの4か国語通訳付き

大会論文集：事前大会登録料金に含まれる

登録締め切り：2001年6月15日

発表申し込み：2001年5月1日まで

登録方法：100DMあるいは等価のUSドルをドイツアピセラピー協会または指定銀行口座に金する

©Deutsche Apitherapiebund

Kapuzinerstr. 49, 94032 Passau

Fax: +49-851-87588

E-mail: info@apitherapie.de

URL: <http://www.apitherapie.de>

©Bank: Sparkasse Passau,

BLZ 740 500 00.

Account: 240 290 510

なお、詳細は www.apitherapy.com にアクセスし、メニューから Events を選んでご覧いただける。

一般参加者、講演者、ポスター発表者、あるいは関連企業出展者として、ふるってご参加いただきたい。

ミツバチカラー絵葉書集

本文中で紹介したが、新しい絵葉書集が2種類完成した。故岡田一次名誉教授の名作写真を集めたものと「ニホンミツバチ」集で、いずれも8枚組。お問い合わせは玉川大学ミツバチ科学研究施設内アジア養蜂研究協会事務局まで FAX (042-739-8685) または email (hitomi@agr.tamagawa.ac.jp) で。

なお、岡田一次名誉教授に関しては、業績集などもあるので併せてご利用下さい。

NGOによる養蜂振興

本年2、3月に、吉田教授と中村助教授がそれぞれ別のNGO主導による養蜂振興プロジェクトの専門家として短期に派遣される。「顔の見える援助」の推進で、国際協力事業団ほかの公的機関からNGOへの援助枠が拡大し、その中で養蜂振興を開発事業に含めているところからの依頼に応じた形。今回はネパールとベトナムで、いずれもトウヨウミツバチを利用した養蜂振興事業のアドバイザーとして現地に赴き、現地を視察し、今後の事業展開などに助言をすることになる。

編集後記：新しい絵葉書集の製作は、古いフィルムにはびこるカビとの戦いで、予想以上に時間を費やし、2月はじめの完成の予定も遅れる一方となった。上記の事情でネパールに行くことになっていて、どうやら完成を見ずに出発することになりそう。2種類の絵葉書にはそれぞれ解説記事を設けたので、撮影時のエピソードなども楽しんでいただきたい。

さて、今回は二つのプロポリスの論文を掲載した。静岡県立大の熊澤・中山両先生には、話題のポリフェノールとプロポリスを結びつけてわかりやすく解説していただいた。また本学藤本先生の論文は、次号に日本産プロポリスを掲載する2部作の前編で、各国のプロポリスの異同を示したもので、掲載したのはわずかだが、1000を超えるサンプルは世界的なコレクションだろう。ウルグアイの加藤氏には日系の養蜂家が多いというアルゼンチンとウルグアイの養蜂事情を紹介していただいた。

またしても刊行が遅れて申し訳けない。(純)